

ディーゴ ガイド



2026.10.5-11

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior
Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II
Peter 3:18

LTG ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(1〜3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

LTG Guide

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあげます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

Cell Group Guide

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか?

Family Worship

19:1 この後、アンモン人の王ナハシュが死に、その子が代わって王となった。

19:2 ダビデは、「ナハシュの子ハヌンに真実を尽くそう。彼の父は私に真実を尽くしてくれたのだから」と言った。そして彼の父の悔やみを言うために、ダビデは使者を送った。ダビデの家来たちがハヌンに悔やみを言うため、アンモン人の地に着いたとき、

19:3 アンモン人の首長たちは、ハヌンに言った。「ダビデがあなたのもとにお悔やみの使者を遣わしたからといって、彼が父君を敬っているとお考えですか。彼の家来たちは、この地を調べ、くつがえし、探るために来たのではないのでしょうか。」

19:4 そこでハヌンはダビデの家来たちを捕らえ、ひげを剃り落とし、衣を半分に切って腰のあたりまでにして送り返した。

19:5 人々が来て、ダビデにこの人たちのことを告げたので、ダビデは彼らを迎えに人を遣わした。この人たちが非常に恥じていたからである。王は言った。「ひげが伸びるまでエリコにとどまり、それから帰って来なさい。」

19:6 アンモン人は、自分たちがダビデの憎しみを買ったのを見てとった。そこでハヌンとアンモン人は、銀千タラントを送って、アラム・ナハライム、アラム・マアカ、ツォバから戦車と騎兵を雇った。

19:7 彼らは、戦車三万二千台、マアカの王とその兵たちを雇った。彼らは来て、メデバの前に陣を敷いた。アンモン人は彼らの町々から集まり、戦いに臨んだ。

ンはこれを邪推して、使者を辱めました。このように主のみこころに沿って誠意を尽くしても、この世の人からは仇で返されるということはあることです。

同じような経験をした、または状況にあるという人も多いでしょう。それに対して、自分をみじめと感じたり、かわいそうと思う必要はありません。主なる神様が理解者です。主のみこころを行っていることを知ってくださいます。

引き続き、ただ主の誠実を尽くしましょう。主がその結果に責任を持ってくださいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6日 火曜

歴代 I



19:8 ダビデはこれを聞き、ヨアブと勇士たちの全軍を送った。

19:9 アンモン人は出て来て、町の入り口で戦いの備えをした。ともに来た王たちは、彼らだけで野にいた。

19:10 ヨアブは、自分の前とうしろに戦いの前線があるのを見て、イスラエルの精鋭全員からさらに兵を選び、アラム人に立ち向かう陣備えをし、

19:11 残りの兵を兄弟アビシャイの手に託して、アンモン人に立ち向かう陣備えをした。

19:12 ヨアブは言った。「もしアラム人が私より強かったら、あなたが私を救ってくれ。もしアンモン人があなたより強かったら、私があなたを救おう。

19:13 強くあれ。われわれの民のため、われわれの神の町々のために、奮い立とう。

【主】が、御目にかなうことをされるのだ。」

19:14 ヨアブと彼とともにいた兵たちが、戦おうとしてアラム人の前方に近づいたとき、アラム人は彼の前から逃げた。

19:15 アンモン人はアラム人が逃げるのを見ると、彼らもヨアブの兄弟アビシャイの前から逃げて町に入った。そこでヨアブはエルサレムに帰った。

19:16 アラム人は、自分たちがイスラエルに打ち負かされたのを見て、使者を遣わして、ユーフラテス川の向こうのアラム人に出て来させた。ハダドエゼルの軍の長ショファクが彼らを率いていた。

19:17 このことが報告されると、ダビデはイスラエル全軍を集結させ、ヨルダン川を渡っ

て彼らの方に進み、戦いの備えをした。ダビデはアラム人と対決する陣備えをした。

アラム人は彼と戦った。

19:18 アラム人はイスラエルの前から逃げた。ダビデはアラムの戦車兵七千と歩兵四万を殺し、軍の長ショファクも殺した。

19:19 ハダドエゼルに仕えていた者たちは、彼らがイスラエルに打ち負かされたのを見て、ダビデと和を講じ、彼に仕えるようになった。アラム人は再びアンモン人を助けようとはしなかった。

アモンジンは「アラム・ナハライムとアラム・マアカ」などを雇ってイスラエルと戦おうとしました。神を無視する者は人の力に頼って目的を遂げようしますが、神を信じる者は神に頼ります。また神を信じる者は、お金ではなく、互いの主にある信頼によって、協力することができます。このヨアブとアビシャイのようです。

「アラムはそれからはもう、アモン人を救おうと思わなかった。」とあるように、人に頼って失敗したアモン人にはみじめな結果が待っていました。人に頼るとこのようです。一方神様に頼るなら、その時にもしも目的が遂げられなくても、そこには神様の深いご計画と最善の導きがあるので、みじめに終わることはありません。

人にではなく、主に頼りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 水曜

歴代 I



20:1 年が改まり、王たちが出陣する時期になった。ヨアブは軍勢を率いてアンモン人の地を打ち滅ぼし、ラバに来てこれを包囲した。しかしダビデはエルサレムにとどまっていた。ヨアブはラバを討って、これを破壊した。

20:2 ダビデは、彼らの王の冠をその頭から奪い取った。それは金一タラントの重さがあり、宝石がはめ込まれていた。その冠はダビデの頭に置かれた。彼は、その町から非常に多くの分捕り物を持ち去った。

20:3 彼はそこの人々を連れ出して、石のこぎりや、鉄のつるはし、斧を使う労働に就かせた。ダビデはアンモン人のすべての町に対して、いつもこのようにしていた。ダビデとすべての兵はエルサレムに帰った。

20:4 その後のこと、ゲゼルでペリシテ人との戦いが起こった。そのとき、フシヤ人シベカイはレファイムの子孫の一人シパイを打ち殺した。こうして、ペリシテ人は征服された。

20:5 再びペリシテ人との戦いがあったとき、ヤイルの子エルハナンは、ガテ人ゴリヤテの兄弟ラフミを打ち殺した。ラフミの槍の柄は、機織りの巻き棒のようであった。

20:6 再びガテで戦いがあったとき、そこに、指が六本ずつ、二十四本ある背の高い男がいた。彼もラファの子孫であった。

20:7 彼はイスラエルをそしったが、ダビデの兄弟シムアの子ヨナタンが彼を打ち殺した。

20:8 これらはガテのラファの子孫で、ダビデとその家来たちの手にかかって倒れた。

神を正しく礼拝し、神を第一として、自分よりも神があがめられるようにと、一貫してイスラエルを指導してきた、ダビデの勝利が記されています。こ

こには記されていませんが、「ダビデはエルサレムにとどまっていた。」というその時期に、ダビデはバテシェバと罪を犯し、ソロモンが生まれたのです。

そのことを記したのは列王記ですが、それは預言の書に該当します。ですから、バテシェバという異邦の血がメシヤの血統に入っていること（異邦人の救いという預言があるゆえに）、またその事件に関して預言者ナタンが働いたことなどが、預言書ゆえに書かれているのです。

一方のこ歴代書は聖文書であって神への礼拝を主題としているので、ダビデとバテシェバのことが取り上げられていないといえます。このように聖書各巻はその特徴と固有の書かれた目的があって、どれもなくてはならないものです。そして神様は一面的な見方しかなさらない方ではないということも分ります。

私たちは自分のことも含めて、一方的であったり、一面的であったりする見方・考え方から脱して、主に聞きましょう。そうするとこれしかないと思っていた考えが、案外特殊であったということが教えられるものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8日 木曜

歴代 I



21:1 さて、サタンがイスラエルに向かって立ち上がり、イスラエルの人口を数えるように、ダビデをそそのかした。

21:2 ダビデはヨアブと民の長たちに言った。「さあ、ベエル・シェバからダンに至るまでのイスラエルを数え、私に報告しなさい。その人数を私が知るためだ。」

21:3 ヨアブは言った。「【主】が、御民を百倍にも増やしてくださいますように。わが主、王よ。彼らはみな、わが主のもの、そのしもべではないでしょうか。なぜわが主は、このようなことをお求めになるのですか。なぜイスラエルに罪過をもたらされるのですか。」

21:4 しかし、ヨアブへの王のことばは激しかった。ヨアブは出て行き、イスラエル中を行き巡り、エルサレムに帰って来た。

21:5 ヨアブは民の登録人数をダビデに報告した。全イスラエルには剣を使う者が百十万人、ユダには剣を使う者が四十七万人いた。

21:6 しかし、ヨアブはレビとベニヤミンをその中に登録しなかった。王の命令を忌み嫌ったからである。

21:7 この命令は神の目に悪しきことであった。神はイスラエルを打たれた。

21:8 ダビデは神に言った。「私は、このようなことをして、大きな罪を犯しました。どうか、このしもべの咎を取り去ってください。私は本当に愚かなことをしました。」

イスラエルの人口を数えることがなぜ罪なのでしょう。かつて神様は民数記では民の人口調査をせよと命じておられます。それは動機に問題があります。

ダビデは連戦連勝で自分の成功が誇らしく、その

ために人口を数えて、自己満足しかったのです。あれほど神様に栄光をお返ししていたのに、ここに来て彼の心が、自分の栄光に傾いてしまったのです。

それくらい…と思って大目に見ても良いようですが、そこから人は変わってゆくものです。何よりも「サタンが…」とあります。これは神の器を神様から引き離すサタンの常套手段なのです。

ですから神様が「イスラエルと打たれた」というのは、その詳細はわかりませんが、神様の愛の試練です。これがなかったらダビデは神から離れて自分勝手な王に変わってしまったでしょう。

自分を誇るために何かしてしまっていないか、それを自己吟味してみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



21:9 【主】はダビデの先見者ガドに告げられた。

21:10 「行ってダビデに告げよ。『【主】はこう言われる。わたしがあなたに示す三つのことがある。そのうちの一つを選べ。わたしはあなたに対してそれを行う。』」

21:11 ガドはダビデのもとに行き、彼に言った。「【主】はこう言われる。『どれかを受け入れよ。』

21:12 三年間の飢饉か。三か月間、あなたが敵の前で攻めたてられ、敵の剣があなたに迫り迫ることか。三日間、【主】の剣、疫病がこの地に及び、【主】の使いがイスラエルの国中を荒らすことか。』今、私を遣わされた方に何と答えたらよいかを決めなさい。」

21:13 ダビデはガドに言った。「それは私には非常に辛いことです。私を【主】の手に陥らせてください。主のあわれみは深いからです。私が人の手には陥らないようにしてください。」

21:14 【主】はイスラエルに疫病を下されたので、イスラエルのうち七万人が倒れた。

21:15 神はエルサレムを滅ぼそうと、御使いを遣わされた。【主】は御使いが滅ぼしているのを見て、わざわざいを下すことを思い直し、滅ぼす御使いに言われた。「もう十分だ。手を引け。」【主】の使いは、エブス人オルナンの前で立ち、抜き身の剣を手に持って、エルサレムの上に伸ばしているのを見た。ダビデと長老たちは粗布で身をおおい、ひれ伏した。

21:16 ダビデが目を見ると、【主】の使いが地と天の間に立ち、抜き身の剣を手に持って、エルサレムの上に伸ばしているのを見た。ダビデと長老たちは粗布で身をおおい、ひれ伏した。

21:17 ダビデは神に言った。「民を数えよと命じたのは私ではありませんか。罪があるのはこの私です。私が悪を行ったのです。この羊の群れがいったい何をしたのでしょうか。わが神、【主】よ。どうか、あなたの御手が、私と私の父の家に下りますように。あなたの民を疫病に渡さないでください。」

為政者によって国は平和にもなり、また戦争にも借り出されます。今は為政者ダビデによって国が打たれました。ダビデの信仰によって栄えた民が今はダビデの不信仰によってエルサレムが滅ぼされそうになったのです。古今東西、国というのはこのような原理で存在しています。

今ここで神様のさばきがイスラエルに及ぶというのは合点がいかない気もします。しかし、恐らく神の前に正しい者はこの7万人に入っていないかたかもしれません。または神に打たれても、それを信仰によって乗り越えて、さらなる恵をいただく者もあったでしょう。そして、もしも滅ぼされた者がいたとしたら、そのような人は神を考慮しない人なので、その原因が神様であることを考えないでしょう。

いずれにしても、神様は理不尽なお方ではなく、義を行うお方です。私たち人間は一面しか見れないので、納得がいかないときがあるのです。

ここでは罪を犯した後のダビデの姿勢が際立っています。また、「私を主の手に陥らせてください。」と、主にさばきを委ねています。」と、あくまでも自分に全ての責任を負わせようとしていて、そこに一切の言い逃れや責任逃れがありません。

罪を犯すことは誰にでもあります。その際、どのような姿勢で主に向くか、その責任に向き合うかが、何よりも大切です。責任ののれでや弁解で、自分が楽になるというのは、実は逆で、主に信頼するからこそ、全てを負っていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10日 土曜

歴代 I



21:18 そこで、【主】の使いは、ダビデにこう伝えるようガドに言った。「ダビデは上って行って、エブス人オルナンの打ち場に、【主】の祭壇を築かなければならない。」
21:19 ダビデは、ガドが【主】の御名によって語ったことばにしたがって上って行った。
21:20 オルナンの振り返ると御使いが見えた。彼とともにいた四人の息子たちは身を隠したが、オルナンは小麦の打穀をしていた。
21:21 ダビデがオルナンのもとに行くと、オルナンはそれを見てダビデに気づき、打ち場から出て来て、地にひれ伏して礼をした。
21:22 ダビデはオルナンに言った。「この打ち場の地所を私に譲っていただきたい。そこに【主】のために祭壇を建てたい。十分な金額で、それを私に譲っていただきたい。そうすれば民への主の罰は終わるだろう。」
21:23 オルナンはダビデに言った。「わが主、王よ。どうぞ受け取って、お気に召すようになさってください。ご覧ください。全焼のささげ物のための牛、薪にできる打穀機、穀物のささげ物のための小麦も差し上げます。すべて差し上げます。」
21:24 ダビデ王はオルナンに言った。「いや、私はどうしても十分な金額で買いたい。あなたのものを【主】に献げるわけにはいかない。費用もかけずに全焼のささげ物を献げたくないのだ。」
21:25 そしてダビデは、その地所の代金として、金の重さで六百シェケルをオルナンに支払った。
21:26 ダビデは、そこに【主】のために祭壇を築き、全焼のささげ物と交わりのいけにえ

を献げ、【主】を呼んだ。主は、全焼のささげ物の祭壇の上に天から火を下し、彼に答えられた。

21:27 【主】が御使いに命じられたので、御使いは剣をさやに収めた。

21:28 そのとき、ダビデは【主】がエブス人オルナンの打ち場で彼に答えられたのを見て、そこでいけにえを献げた。

21:29 モーセが荒野で造った【主】の幕屋と全焼のささげ物の祭壇は、そのときギブオンの高き所にあった。

21:30 しかしダビデは、神を求めてその前に出て行くことができなかった。【主】の使いの剣におびえたからである。

サムエル記ではダビデの最大の失敗はパテシェバとの性的関係であったように記されていますが、歴代誌ではイスラエルの人口調査のように記されています。人口調査は、神にではなく国力に頼るダビデの不信仰の結果だからです。

どちらが本当なのかといふかしがる必要はありません。どちらも問題であり、両者とも同じ時期に起きたことが重要です。つまり勝利や成功によって神の恵みを忘れてしまい、安心によって自分を頼みとするようになってしまったのです。そこから罪への警戒もなくなってしまうのです。

しかしダビデはそこから回復しました。それはただ神を恐れたことです。「主の使いの剣を恐れたから」とあります。私たちも、主に立ち返るのに遅いことはありません。主の声を聞いて、主をないがしろにした部分を悔い改めて、祈りの「祭壇を」築きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



22:1 そこで、ダビデは言った。「これこそ神である【主】の宮だ。これこそイスラエルの全焼のささげ物の祭壇だ。」

22:2 ダビデは命じて、イスラエルの地にいる寄留者を召集し、神の宮を建てるため、石材を切り出す石切り工を任命した。

22:3 ダビデは、門の扉の釘や留め金用の鉄を大量に用意し、青銅も量りきれないほど多く用意した。

22:4 杉材も数えきれないほど用意した。シドン人とツロ人が、大量の杉材をダビデのもとに運んで来たからである。

22:5 ダビデは言った。「わが子ソロモンは、まだ若く力もない。【主】のために建てる宮は、壮大なもので、全地で名声と栄誉を高めるものでなければならない。それゆえ、私が用意しておく。」こうして、ダビデは彼が死ぬ前に多くの用意をしておいた。

22:6 ダビデはその子ソロモンを呼び、イスラエルの神、【主】のために宮を建てるように命じた。

22:7 ダビデはソロモンに言った。「わが子よ。私は、わが神、【主】の御名のために宮を建てる志を持続してきた。

22:8 しかし、私に次のような【主】のことがあった。『あなたは多くの血を流し、大きな戦いをしてきた。あなたがわたしの名のために家を建ててはならない。わたしの前に多くの血を地に流してきたからである。

22:9 見よ、あなたに一人の男の子が生まれる。彼は穏やかな人となり、わたしは周りのすべての敵から守って彼に安息を与える。彼の名がソロモンと呼ばれるのはそのためである。

彼の世に、わたしはイスラエルに平和と平穏を与える。

22:10 彼がわたしの名のために家を建てる。彼はわたしの子となり、わたしは彼の父となる。わたしは彼の王座をイスラエルの上にとこしえに堅く立てる。』

22:11 そこで、わが子よ、【主】があなたとともにおられ、主があなたについて語られたとおり、あなたが、あなたの神、【主】の宮を立派に建て上げることができるように。

22:12 ただ、どうか【主】があなたに思慮と悟りを与えて、あなたをイスラエルの上に任命し、あなたの神、【主】の律法を守らせてくださるように。

22:13 【主】がイスラエルのためにモーセに命じられた掟と定めをあなたが守り行うなら、あなたは栄える。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。

22:14 見なさい。私は困難な中で【主】の宮のために、金十萬タラント、銀百万タラントを用意した。また、青銅と鉄はあまりに多くて量りきれない。それに、木材と石材も用意した。あなたは、これらにもっと加えなさい。

22:15 あなたのもとには、石を切り出す者、石や木に細工する者、各種の仕事に熟練した者など、多くの仕事をする者がいて、

22:16 金、銀、青銅、鉄を扱うが、その人数は数えきれない。立ち上がって、実行なさい。【主】があなたとともにいてくださるように。」

22:17 また、ダビデはイスラエルのすべての長たちに、その子ソロモンを助けるように

命じた。

22:18 「あなたがたの神、【主】は、あなたがたとともにおられ、周囲の者からあなたがたを守って安息を与えられたではないか。実に、主はこの地の住民を私の手に渡され、この地は【主】の前とその民の前に服した。

22:19 今、あなたがたは心とたましいを傾けて、あなたがたの神、【主】を求めよ。立ち上がって、神である【主】の聖所を建て上げ、【主】の御名のために建てられる宮に、【主】の契約の箱と神の聖なる用具を運び入れよ。」

ダビデは神殿建築が許されませんでした。それで落ち込むことなく、自分の役割としてソロモンの建築を助けました。私たちも役割を喜び、主のご計画を支えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

